

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<p>○子どもひとり一人の豊かな成長をめざし、まちと共に歩む魅力ある学校づくりを推進します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本をしっかり身に付け、協働して学ぶことが楽しいと感じられる充実した授業実践をします。 ・互いのよさを認め合い、あたたかな人間関係を基盤とした自己有用感を育み楽しい学校生活を送れるようにします。 ・まちの人との豊かな交流を意識した教育活動を推進し、地域の一員として「わがまち」を愛する心を育むとともに、これからの社会に対応することのできる子どもを育てます。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

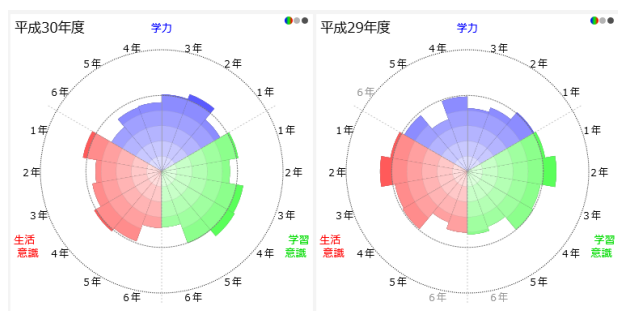
重点取組分野	取組目標	具体的取組
<p>確かな学力 (学習指導)</p>	<p>自分の思いや考えをもち、対話しながら、学びを深めてく子の育成をめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの実態を丁寧に見取り、各教科において、育成すべき資質・能力を明確にした授業づくりをする。 ・自分の思いや考えを伝え合い、主体的に取り組むことができる課題設定、授業展開を工夫する。 ・朝の帯時間の15分間（スキルタイム）の充実をはかり、問題解決に必要な基礎学力の定着をめざす。
<p>担当</p>	<p>重点研究推進部</p>	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

全体的に、横浜市の平均的な学力より低い。全教科において学力層のC層とD層を合わせた割合が、50%前後である。学力層Aに属する児童の割合も、横浜市の平均より低い。学力・学習意識・生活意識のいずれも学年によってばらつきがあるが、全体的に知識・理解の習得や、それらを使う思考・表現について課題がある。

児童一人ひとりが学ぶ意欲を持つことができる授業づくりに今後も取り組んでいくことが必要であると考えます。



(2) 教科学習の状況

- 国語科：ことばの理解、読み取る力に課題
- 算数科：知識理解、数学的な考え方に課題
- 社会科：知識・理解の習得や思考・表現において課題
- 理科：知識・理解の習得や思考・表現において課題

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学年によってばらつきはあるものの、全体的に学習・生活意識が高まってきている。前年度より、校内重点研究において、自分の思いや考えをもち、他者とのかかわりや体験を通して学ぶことを重視した、問題解決学習に力を入れ取り組んできたことも、要因の一つと考えられる。一方で、知識・理解の定着や、基礎基本を活用していく力はまだ不十分であるといえる。授業のなかで、それらを定着させられていないことが第一として考えられるが、家庭での学習習慣や読書の習慣が確立していないことも、学力が定着しにくい一因になっていると考えられる。学習が日常生活や社会に出たときに役立つと考えている児童は多いため、各教科において身に付ける資質・能力を明らかにし、教師一人ひとりが教材研究をしっかり行い、学ぶ楽しさを味わうことができる魅力的な授業づくりについて、より一層取り組んでいく必要がある。